

No. 5

ニチメン東京社友会

〒107-8655 東京都港区赤坂 2-14-7 双日(株)内 17F
URL <http://nmtkshayukai.hp.infoseek.co.jp/>
E-mail menkwa@sojitz.com

【ページ】

1. 2008年度総会・懇親会開催		
① 社友会会長挨拶	会 長 丸山 修作	2
② 来賓ご挨拶	双日㈱会長 土橋 昭夫	3
③ 総会・懇親会報告	世 話 人 倉持 次雄	5
④ 2007年度事業報告&収支報告及び2008年度事業計画&収支予算	世 話 人 沖本 達也	7
⑤ 会則・OBルーム使用規則改定		9
2. 2009年1月19日開催『賀詞交換会』案内		10
3. 会員動向		
① 新規加入者		11
② 2009年度長寿お祝い表彰		12
③ 討 報		12
4. 大阪社友会ニュース9月10日総会・懇親会開催		13
5. 双日㈱保養所案内		13
6. OB会便り		
① ニチメン機友会	南部 捷郎	14
② ニチメン東京化工OB会	栗田 久弥	15
③ ニチメン慶応会発足	大野 久生	16
7. 会員寄稿文		
① 懇親会における“長老挨拶”追補	山口 良孝	18
② 社友会に入会させて頂いて	広瀬 一彦	21
③ 故古谷野役土さんの思い出	矢吹 敦司	23
④ 『今をしっかりと生きるために』後日談	岩下 恒則	24
⑤ 駐在地＝紛争地 回顧	大谷毅丈夫	26
⑥ 老人残日抄『グローバル化ということ』	松村昭太郎	29
⑦ 世界の言語私の語学遍歴	渋谷 義	30
⑧ 大阪中之島から東京日本橋まで	田村 昌久	32
⑨ バドワイザー・ビールにまつわる熱い商標紛争	浜地 道雄	34
「ダルビッシュ」に思う中東地政		
8. 追 悼 文		
故中條 幹雄さん	花澤 和郎	36
故古谷野 役土さん	平岡 昭三	37
9. 社友会役員・世話人一覧		38
10. ニチメン東京社友会連絡先		38
11. 双日㈱社友会関係窓口		39
12. 2008年度年会費支払いについて		39
13. 編集後記		40

第三回ニチメン東京社友会総会における会長挨拶

2008年7月22日(火) 於 如水会館

会長 丸 山 修 作

皆さん、こんにちは。丸山でございます。

この暑い最中に、沢山の方がニチメン東京社友会の総会・懇親会にご出席いただきまして、ありがとうございます。

こう暑くては私も何か特別な用事がない限り行くことが出来ないのじゃないかと思いましたが、挨拶をしなければならないということで、やって参りました。

本日このように大勢の会員の皆様のご来場を頂きましたことを心から感謝いたします。

双日株式会社からも土橋会長・加瀬社長はじめ、役員幹部の方、多数お見えいただいております。大変有難く、厚く御礼を申し上げます。

只今倉又代表からの報告の通り、この社友会も第三回目を迎えるに到りました。何となく随分長いことやってるんだなぁと思ったり、まだ三年かというような感じも致しますが、まだまだヒヨッコでございます。

社友会はヒヨッコですけれども、先程ご紹介し、再任を許可されました会長はじめ役員、監事、世話人は全て年寄りでございます。しかし、さらに向う二年やれ、ということでございますので、老骨に鞭打って一生懸命頑張っていきたいと思えます。

少しでも社友会の皆さんに、いい社友会が出来たと思っていただくように努力をして参りたいと思えますが、何と言いましても第一の目的は、同じ釜の飯を食った連中が回顧談に花を咲かせ、出来れば明日への活力の糧にするものを見出す場にしたいと思うものであります。

話は変わりますが、先般、双日株式会社の株主総会に出席して参りました。大変充実した総会でした。二時間に亘る会社業容の説明、質疑応答に加瀬議長は極めて丁寧、熱心にお答えになって、その運営ぶり、進行ぶりは正に水際立ったものだと思っております。いずれにせよ、双日株主総会での株主の質疑応答には株価の低迷のことが多く出まして、これは時節柄やむを得ないことと思いましたが、議長の心強い説明で、双日の将来に極めて明るいものが見える、ということを感じた次第でございます。

最後に、双日株式会社の一層の躍進とご発展を祈念致し、尚且つ、本日まで出席の会員の皆様のご多幸をお祈りして、簡単ではありますが会長の挨拶とさせていただきます。

どうも有難うございました。



土橋会長ご挨拶

双日(株)会長 土 橋 昭 夫

ニチメン東京社友会も回を重ねる毎にご出席者が増え、本日も梅雨明けの大変暑い中、大勢の方がお集まりになられ、私と致しましては先輩方のお元気なお姿に大変勇気づけられ、また嬉しく思っております。このような場で会社の状況も順調であると報告ができることを大変喜ばしく思っております。

先月開催致しました定時株主総会には、本日ご出席の皆様方のなかにもお越し頂いた方、また議決権行使頂いた方が多数いらっしゃるかと存じますが、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

さて、改めて本年3月期決算の概要をご報告致しますと、経常利益は当初の見通し(1,000億円)を上回って1,016億円となり、経営統合の際に目指していた1,000億円に到達致しました。

当期純利益は株価の低迷等もあり、有価証券の評価損等で特別損失が膨らんだ結果、公表見通しの650億円には達せず627億円に留まりましたが、経常利益、当期純利益ともこれまでの最高益を更新することができました。

私どもは現行の中期経営計画において、まずは復配すること、優先株式を早期に一掃すること、そして投資適格格付を取得すること、の3つを目標に掲げて邁進してまいりました。

おかげさまで本年3月末を以って、数値目標はもとより格付機関のS&P社からBBBーではありますが念願の投資適格格付が取得できました。これを受けて期末配当は中間期配当3円50銭から1円増となる4円50銭、通期で8円の配当を実施致しました。

本年度は中期経営計画の最終年度となりますが、まずまずの出足でスタートしておりますので、最終年度の目標数値である経常利益1,000億円、当期純利益600億円をきっちりと達成して、配当は、中間期4円50銭、期末4円50銭、通期で1円増配となる9円を実施する予定であります。

今年の株主総会ですが、約1,200名の株主様にご出席になりました。株主様の当社に対する関心の強さ、これだけ注目されているということに関しまして、経営と致しましても、責任の重大さを実感致しております。



また今年は株主総会後に株主懇談会も開催致しましたが、700名近い株主様にご出席されました。

懇談会では多くの株主様からお叱りや励ましを多数頂きましたが、一番多かった声は、やはり株価を何とかして欲しい、配当がまだまだ物足りない、この2つに集約されるものと思っております。

会社が再建できましたのも、やはり株主様の御理解と御支援があったからこそであり、今後も配当をはじめ株主様への利益還元は当社の重要な課題と認識しております。

株価につきましては、市場に委ねておりますので、私どもがどうこう出来るものではございませんが、愚直に、言ったこと・公表したことを着実に数字で残し、お示しすることが、何よりの株価対策ではないかと思っております。

私どもが今進めております計画を着実に実行すること、また現在、来期以降の中期経営計画を策定中ですが、この次期中期経営計画をしっかりと実行していくことにより、その結果が間違いなく当社の株価にも反映されて来ると確信しております。

本年の加瀬社長の年頭所感の中で、今年は環境とアフリカの年だということを申しておりました。

アフリカと申しますと、先般、TICAD- IV（第4回アフリカ開発会議）が横浜で開催され、また今月初めの洞爺湖サミットにもアフリカ数カ国から首脳が来日して、サミット関連会議に出席しました。

実は本年2月に私も初めてエジプトを訪問し、首相以下、政府首脳との会談を持つ機会がありました。

エジプトと言いますと、ニチメンは1892年に日本綿花として発足致しましたがまさにその当時からエジプトの綿を輸入する事業を行っておりました。そして商社として初めてエジプトに事務所を設け、東アフリカ地域との貿易・投資を今から100年以上も前から行っていたことを思うにつけ、大変感慨深く、また先人達の努力に対して敬服すると同時に、私ども商社マンの原点であるパイオニア・スピリッツを再認識した出張でございました。

本日は私以外にも都合が付く役員が多数出席致しておりますので、ご紹介申し上げます。このメンバーでこの1年をしっかりと頑張り、来年のこの席でまた良い報告が皆様方にできますように業務に邁進してまいりますので、どうぞ引き続きご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

（加瀬社長、佐藤副社長、鈴木専務執行役員、市儀専務執行役員、石原常務執行役員、此田常務執行役員、後藤執行役員、花井執行役員、岡崎監査役の紹介）



双 日 役 員 一 同

第三回ニチメン東京社友会総会・懇親会開催報告

倉 持 次 雄

当会第三回総会・懇親会は、7月22日（火）、如水会館で開催致しました。

猛暑にも拘らず、当日の出席総数は180人を超える盛会となりました。中でも受付開始時刻より数十分も早めに到着した先輩がおられたことは、この日を待ち遠しく思ってきたOBの方々の気持ちを象徴しているかのようで、大いに嬉しく感じた次第です。

第一部の総会は倉又世話人代表を議事進行役として、定刻に始まりました。

先ずは前年度で任期満了となった役員・世話人の改選と紹介、次いで丸山会長の挨拶が行われました。引き続き、前期の事業報告及び収支報告、今年度事業計画、会則の一部改訂につき、出席者全員の拍手で承認されて、すべて滞りなく終了しました。（会長挨拶、承認事項の詳細については別途掲載してありますので、是非ご覧下さい）

ついで直ちに、長谷川世話人の司会で第二部の懇親会に移りました。

冒頭で、双日（株）土橋会長の来賓ご挨拶。会社業績は目標に向かって着実に前進中で、三月期決算は増配を決定、などなど、力強いお話で出席者は大いに励まされたことでした。。なお本日は、ご多用の中、会長・社長含め役員合計九人のご参加を頂きました。

さらに山口良孝さんの長老ご挨拶に続いて、待ちかねた乾杯に島崎京一さんのご発声で、賑やかに会食が始まりました。早くも懐かしい仲間同士の人の輪があちこちで生まれて いました。中締めには廣瀬一彦さんがお立ちになり会場は大きな拍手で盛り上がりしました。

お開きの予定時刻が過ぎても中々立ち去りがたい気分のグループも幾つか残っていましたが、再開を誓いながら三々五々会場を後にして行かれました。

末筆ながら、受付業務では今年は細かい現金出納が加わり、協力者の皆様には特別ご面倒をかけました。茲にお名前を記録して、御礼に代えるものです。

（順不同敬称略）

新崎盛晨、幾島清、植木弘政、牛久保豊、大塚静子、岡田茂、垣田佐代子、笹原弘、佐藤統次、高瀬允宏、利根川慎治、滑川和子、埴生栄勇、福本匡純、牧洋生



総会・懇親会出席者リスト

青木聡弥	河西郁夫	真保博一	中尾舜一	三水浦甲蔵
青木政和	笠井公雄	菅沼利太郎	庭野部捷郎	水江博三
朝倉重武	河西良治	杉浦幸雄	南島本一郎	溝箕武彦
荒木崎盛	勝田英三	杉本佳久	名本恒男	箕宮博
新幾田清	金田亮三	祐生宏一	野城井存	宮本靖
池田格通	鎌上篠勲	菅鈴木邦治	野賀島昭一	宮村澤醇
池田保一	川畑正雄	鈴須陶潤	永芳羽本彦	村矢島国
石澤謙啓	喜多嶋龍弘	関大工原正	橋橋本宏	安山重
石原伸夫	木金城貞二	高尾亨一	長谷川淳夫	山山良
泉市久夫	久保則次	高瀬允善	初花生栄	山山陽
市儀正康	倉持久量	高高秀泰	埴浜林亨	山与儀秀
糸藤安隆	越古藤彰	高高宏真	半久澤克	吉吉川
今岩田昭	後小西重哲	高田尻中久	平岡瀨一	吉木敬
岩田英弘	此小林靖幸	田畑中昌久	廣瀨田雄	吉水三
植野明豊	小三五月	田村村順	廣深尾富	吉立古健
牛久保弘	坂井良潤	田塚本賢	福福本野	吉立古健
浦谷海静	桜佐俊弘	津東門申	藤古家良	渡利
大塚西久	佐原悦三	利根川慎	星合登	来賓
大野栗啓	笹藤鐵雄	豊間井清和	星加登	(双日役員他、非会員のみ)
大森啓弘	佐藤鐵雄	永滑成西	本前牧	土橋昭夫
大岡謙岩	佐藤鐵雄	西谷崎京	榎松尾村	加瀬洋二
岡島茂彦	三分田谷崎	柴谷水石	松尾村山	佐藤良正
岡田隆達	柴谷水石	渋谷清白	丸丸	茂木俊幸
沖田寛	新藤喜与次	新		花西木元
沖野利田				松山
小甘垣				
垣				

来 賓

(双日役員他、非会員のみ)

土橋昭夫
加瀬洋二
佐藤良正
茂木俊幸
花西木元
松山

2007年度事業報告及び収支報告

(期間：2007年07月01日－2008年06月30日)

I. 事業報告：

	実績(千円)	予算(千円)
第2回総会・懇親会(平成19年07月14日)	1 0 0	2 2 0
会報・会員名簿発行	7 9 4	8 0 0
ホームページの維持及び改良	4 1	1 4 0
第1回新年会開催(平成20年01月13日)	5 3 1	5 7 0
慶弔行事：	4 6 0	3 6 0

II. 収支報告書：

A) 収入の部

	実績(千円)	予算(千円)
1 会 費	1,827	1,800
2 双日支援金	1,800	1,800
3 寄 付	12	200
4 そ の 他	138	0
合 計	3,777	3,800

B) 支出の部

1 総会の開催	1 0 0	2 2 0
2 新年会の開催	5 3 1	5 7 0
3 会報・会員名簿の発行	7 9 4	8 0 0
4 ホームページの運用	4 1	1 4 0
5 会員慶弔	4 6 0	3 0 0
6 世話人会の運営費用	2 3 7	3 6 0
7 事務所の運営費用	1 8	1 0
8 予備費＋雑費	0	1 1 0
合 計	2,181	2,510

C) 差引当期繰越金(A－B) 1,596 1,290

D) 前期繰越金 810 810

E) 当期末繰越金 2,406 2,100

2008年度事業計画案及び収支予算案

(期間：2008年07月01日ー2009年06月30日)

I. 事業計画案：

	予算 (千円)	前期実績 (千円)
第3回総会・懇親会の開催	780	100
会報・会員名簿の発行	840	794
ホームページの維持及び改良	200	41
第2回新年会開催	560	531
慶弔行事	350	460

II. 収支予算案：

A) 収入の部

	当期予算案 (千円)	前期実績 (千円)
1 会 費	1,950	1,827
2 双日支援金	1,800	1,800
3 寄 付	0	12
4 そ の 他	100	138
合 計	3,850	3,777

B) 支出の部

1 総会の開催	780	100
2 新年会の開催	560	531
3 会報・会員名簿の発行	840	794
4 ホームページの運用	200	41
5 会員慶弔	350	460
6 世話人会の運営費用	440	237
7 事務所の運営費用	650	18
8 予備費＋雑費	10	0
合 計	3,830	2,181

C) 差引当期繰越金 (A－B) 20 1,596

D) 前期繰越金 2,406 810

E) 当期末繰越金 2,426 2,406

社友会『会則』改定のポイント

2008年総会場で、出席者には改定案を手交して説明後、ご承認頂きましたが、茲許、改定点を掲載し、全会員にお知らせいたします。（会則は、会報No.1 P23～24参照）

第6条（役員）；（4）世話人12名内外を、（4）世話人20名内外とする。

第7条（総会）；1. “事業年度は、毎年7月1日から翌年6月30日までとする”を新たに追加。

2. この項の“総会は会員総数の過半数の出席によって成立するものとする。委任状提出者は出席として扱う。”を削除する。

従って、3項が 2項に、4項が3項になる。

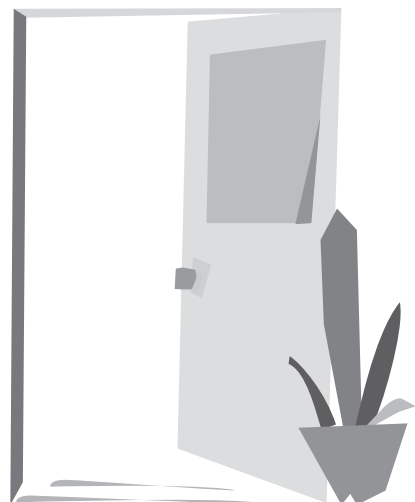
5. この項を4項として、“会長が必要と認めた場合は臨時総会を召集することが出来る。”に続く文章を、“尚、議決方法等は本条第2項に準じるものとする”とする。

社友会事務所使用規則

（会報No. 1 P26参照）

第3項（2）に縷々述べておりますが、IDカード及びルーム・キーを双日㈱から貸与されて入室せねばならず、まことに煩雑でありました。今後は部屋の施錠は致しません。

従ってIDカードのみで出入り出来ますので双日㈱社友会担当青木聡弥氏（03－5520－2390）にコンタクトするか、最寄の世話人に申し出てご利用下さい。



2009年度社友会『新年賀詞交換会』開催ご案内

社友会では、通常の7月の総会・懇親会に加えて、昨年より新年会を、催す事になりました。

OBの皆様が、お元気に新年を迎えられた歓びを共有し、明日への活力を得られるように一堂に会したいと存じます。

非会員の方で入会ご希望の方もお誘い下さい。

当日会費は要りません。

軽食と飲み物を用意します、万障お繰り合わせの上、ご参加ください。

記

開 催 日 ; 2009年1月19日(月曜日) 12:00～14:00

会 場 ; 双日(株) 本社、西館7階 会議室

アクセス ; <港区赤坂 サカスビル向い赤坂新国際ビル西館7F>
<東京メトロ千代田線赤坂駅下車5番出口を出てすぐ右へ>

会 費 ; 無 料

尚、軽食及び飲み物を用意致しております。

- 特記事項 ;
- 双日(株)首脳部のご参加も予定されてます。
 - 長寿の表彰、米寿5名、白寿の該当者なし
 - 受付に社友会入会申し込みの窓口を設置します、
非会員の方で入会ご希望の方は2009年度年会費3000円ご持参ください
 - ニチメン大阪社友会より、会報及び会員名簿をご提供いただいております。
- 数に限りがありますので、先着順にさせていただきます。

双日(株)内、社友会担当窓口 ; 人事総務 ; 青木 聡弥氏
03-5520-4088

以 上



☆☆☆ 2009年度長寿お祝い表彰者 ☆☆☆

(敬称略)

阿多 宏太郎、鈴木 邦治、山口 富美子、望月 昌徳、門松 孝、加藤 信一郎、山本 重貞

以上7名の方々には、来年1月19日の新年賀詞交換会のお祝い申し上げ、
お祝いの品を贈呈いたします。



訃 報

(2008年5月5日以降)

ニチメン東京社友会

氏 名		死亡年月日	享 年
池 上 喜 造	機械	2008年5月14日	80歳
久 保 敏 夫	機械	2008年5月13日	74歳
細 江 正 也	不明	2008年7月19日	95歳
中 條 幹 雄	鉄鋼	2008年8月11日	67歳
古 谷 野 役 士	機械	2008年8月17日	93歳
因 幡 忠 顕	職能	2008年10月25日	74歳

ニチメン大阪社友会

氏 名		死亡年月日	享 年
片 野 耕 三	紙パ	2008年06月19日	79歳
新 屋 猛	繊維	2008年08月10日	73歳
中 尾 登	繊維	2008年10月08日	84歳
橋 本 晃	機械	2008年10月24日	72歳

ご冥福を、お祈りいたします。合掌



☆☆☆ 大阪社友会総会・懇親会開催 ☆☆☆

— 編 集 部 —

第二回総会・懇親会は、10月10日、大阪中之島トレードピアに200名余の会員を集めて開催された。

田淵弘通会長の下、尾子明代表世話人の議事進行により総会は滞りなく執り行なわれた。

双日(株)よりは土橋会長以下役員の方々がご来賓として臨席された。

懇親会では、田中義巳さんの御元気な乾杯に始まり、長老代表辻井準一さんのご挨拶があり、会の雰囲気はいやが上にも盛り上がった。

さすがニチメン発祥の地でのOB会、分銅マークの旗の下、ともに苦楽をともにしたお仲間が各処から集まってきた。

長老クラスの早瀬三郎さんのお元気の姿が印象的だった由。

保 養 所 の ご 案 内



このたび、双日健康保険組合が保養所の管理運営を委託しております株式会社ビスタリゾートとの間で、別冊「VISTA HOTELS GUIDE 2008」に記載されております直営施設につきまして、ニチメン社友会の会員も利用できるようになりました。

申込みは双日健康保険組合のHP(<http://www.sojitz-kenpo.com/index.html>)のビスタリゾート直営施設にある申請書)、もしくは、別紙FAX申込書に必要事項を記入のうえ、(株)ビスタリゾートまで直接申込をお願いします。

尚、別冊掲載施設の内、「メープルコート軽井沢（旧ニチメン軽井沢保養所）」と「ラフィーネ伊東」は双日健保所有、「御殿場 遊彩の樹」は双日所有ですので、下記の特別料金が適用されますが、その他の施設は双日健保以外の他社健保の所有ですので、利用料金は別冊記載の料金となります。

		軽井沢	伊東	御殿場
平日プラン	一泊二食	6,090円	6,090円	6,000円
休前日プラン（年末年始含）	同	7,140円	7,140円	7,000 - 8,000円

予約先：ビスタリゾート予約センター

TEL：03-3219-1331

FAX：03-3219-1333

ニチメン機友会開催

南 部 捷 郎

2008年10月18日八重洲富士屋ホテルにて、第四回機友会が開催された。

当初プラント本部OB会として故宮本和夫会長の下、スタートした本会は、その後、機械部門OB全体の会として発展し、今は上条達雄さんが会長である。

今年度は、原動機部OBが担当幹事を受け持った。

当日、12：00より会は、先ず長谷川洋さんの司会進行により始まった。

冒頭、上条会長のご挨拶、そして石澤謙一さんの乾杯の儀で、宴は始まった。

暫くして遠来の賓客、野村喜久雄さんのご挨拶を頂いた。

80歳をこえて尚御元気に、大阪では数々のニチメンOBのゴルフ・コンペやOB会に参加され、大忙しとのこと。

宴半ばにして、ニチメン東京社友会会長の丸山修作さんにご挨拶いただいた。

毎度、軽妙洒落なお話に座は寛いだ。

ニチメン機械部の往時を地球を駆け巡って奮闘した多くの戦士も今や白髪の好々爺となり、健康でこの日の会合に出席できた喜びを分かち合った。

NYから参加の元電機の山本正己さん、何時でも何処でも参加の大阪の山邑陽一さんなど。最後のほうで、立古健策さんのご挨拶と言うより演説が入り、最後にイスラムのお祈りを詠唱され大いに雰囲気は盛り上がった。

来年の開催を楽しみに、元気で再会を期して、会はお開きとなった。

最後に一言。本年は若手（若手と言っても60歳代前半）OBの方々の参加が少なく、少々寂しかった。来年は気楽に参加いただくよう期待しています。



ニチメン東京化工OB会<第18回懇親会>

幹事 栗 田 久 彌

恒例による10月第3金曜日の17日(金)18時より約3時間弱の間、常設会場となっている旧ニチメン東京本社ビルから程近い日本橋茅場町の鉄鋼会館で、ニチメン東京化工OB会を執り行いました。平成2年(1990)発足から中断することなく続けられている東京化工本部関係者の年1回の懇親会です。

今回の参加者は、双日現役 及び 他社への転職組を含む総勢44名と、例年に比べやや少な目でしたが、開宴予定時間の30分前には はや大方の方々が参集されましたので、急遽開宴前のアルコールサービスを開始してのスタートでした。

たちどころに、グラス片手に旧交を温めている人垣があちこちに出来上がり、いかに皆さんがこの懇親会を楽しみにしているのかが、直かに伝わって来る光景が作りだされました。

会員の一人である双日常務執行役員の石原さんも、業務超多忙の中 スケジュールを調整されて駆けつけて来られ会員諸氏と大いに懇談され、又 双日の現状や今後の見通し等についての説明も頂きました。

20時30分過ぎ、宴たけなわでは有りましたが会場時間の関係から、幹事より来年度の開催日10月16日(金)を告げた後、成見さんの音頭で中締めを行い本年度の懇親会を無事閉会致しました。

参加者名(アイウエオ順、敬称略)

青木 和正	浅井 正彦	浅子 豊治	池田 格	石原 敬資	植木 弘政
上杉 将司	内山 靖人	大村健太郎	沖田 隆彦	小野 寛	笠原 聖子
河本 吉人	清田 郁夫	熊谷 信弘	栗田 久彌	古藤 彰三	柴田 実
島崎 京一	須藤 忠昭	高野 千秋	竹内 可能	橘 行雄	田畑 実
丹下 薫	栃木 良雄	中尾 弘久	滑川 和子	成見 和男	野中 忠雄
浜田 早苗	林 悟	日原 東洋	平井出良彦	牧 洋生	牧野 泰久
水野 英幸	箕作 武彦	山邑 陽一	横山 正巳	吉海 秀造	吉木 健
吉田 孝生	吉村 文夫				



第18回 ニチメン東京化工OB会 島崎会長挨拶

[幹事] 合成樹脂関係：吉木 健・化学品関係：栗田 久彌

ニチメン慶応会の発足に当たり

会長 大 野 久 生

ニチメン慶応会の発足は遅きに失した感がありますが、今年のニチメン東京社友会新年会において、慶応義塾出身者のOB会をやろうではないかという動議が出たのが始まりでした。

これをうけて、昭和30年代卒業の牧 洋生君を中心に、金城弘明・高木亨一・

岡島岩男・笹原 宏の諸兄が実務担当者となって、人名の掘り起こし、会則の原案作成、発会式の設営と出席者数の確認等々、それこそ手弁当の昼夜を分たぬ尽力により、予想を超える91名の塾出身のOB生存会員が確認され、塾卒業年度と学部、ニチメン時代の主たる所属部を含めた名簿の作成を見る事が出来ました。

そして5月25日の富士屋ホテルでの発会式の運びとなりました然し、各自の身边には、小学校から大学までや軍隊時代等々の親睦会更にはニチメン時代の各本部や海外を含めた各店での諸会合も数多く開かれていると思います。退職後の自由の身になった者には、出席する時間的余裕もあり、一つ一つの会が昔を偲び、思い出を話し合う楽しい一時を過ごせる場でもあります。

この度のニチメン慶応会はこの字の通り、会員各自の学生時代と実社会人時代と人生の大半を過ごした連中の集まりです。同じ学舎・環境の中で学び、同じ職場で活躍し苦楽を共にした者同士が、苦労話や失敗談等々共通の話題で花を咲かせる場で賑わう事になる様願っております。

今年は慶応義塾創立150年を迎え大々的に記念式典が11月に行われるお、聞いております。

塾出身者で私より年長の存命者がおられず、不肖私が会長を仰せつかった次第でございます。

ニチメン在職中は、あまり学閥という意識が他社に比して少ないようでしたし、大学出身別の親睦会があるとは全くと言ってよい程聞きませんでした。おります。福沢諭吉が塾を開き、その門下生達が日本の近代化に大いに貢献した様に、我々も独立自尊の精神をもってニチメンという創立110余年を経た商社を通じ、戦後の日本の復興に寄与した事と自負しております。

この会が益々盛大に楽しい会に発展してゆく事を望んで止みませ

2008年5月25日(日曜日)、「八重洲富士屋ホテル」 「あんず・なつめの間」にて12時半開宴、18名の出席予定者全員の出席で会は滞りなく進めることができました。

先ず、世話人代表の牧さんから、ニチメン慶応会開催に至る経緯をご説明させていただいた後、本会の会長に大野さんを推すことを提議し、全員の拍手で決定、直ちに大野会長にご挨拶いただきました。

次いで、丸山さんの音頭で乾杯、さらに「慶応義塾塾歌」を全員で高らかに合唱し、高潮した気分の中で会は和やかに進行了しました。

世話人の高木さん、岡島さんの挨拶近況報告に続いて、高瀬さん、小野さん、菅沼さん、松本さん、笹原さん、陶山さん、木村さん、窪田さん、中川さんから入社の際の思い出や近況が語られ、最後に会として監事が必要とのことから小野さんにお引き受け願ひ、また会計実務は笹原さんをお願いしました。

瞬間の二時間でしたが、次回は2009年6月20日(土)12時半開催と決定し、小野さんの中締めで、再会を約し無事散会となりました。

なお、会の名称についてですが、「ニチメン三田会」としてはどうかとの意見も多く出ておりますが、三田会と名乗ることによる問題点等もありますが、折角のアドバイスでもあり、今後世話人を中心に検討させていただくことにしました。



今回ご出席の皆さんのお名前は下記の如くです。敬称略、順不同。カッコ内入社年度。

大野 久生 (24)	丸山 修作 (25)	松尾 憲一 (25)	高瀬 善男 (27)
金沢 英雄 (31)	小野 寛 (32)	沢井修次郎 (32)	牧洋 生 (33)
菅沼利太郎 (34)	松本 理則 (35)	木村 敬男 (36)	高木 亨一 (36)
岡島 岩男 (36)	笹原 弘 (37)	陶山 晃 (37)	田所 忠彦 (45)
窪田 厚三 (45)	中川 義章 (50)		

☆ 本会は先ずニチメンでの慶應義塾大学卒業生を探し出すことから始めましたが、まだ全員をカバーするに至っておりません。塾出身者でお知り合いの方がおられましたら、世話人の方へよろしくご連絡をお願いします。



第三回総会懇親会における長老挨拶&追補

山 口 良 孝



私、只今ご紹介にあづかりました山口良孝（ヨシタカ）と申します。通称はリョウコウさんで通っておりますけれども、要するに善良の良と親孝行の孝の字を書くわけですね。

私、長老という名指しで挨拶をせよ、とこういう大役を仰せつかったのですが、私より年上の方がまだ沢山、沢山ではないかな、四～五人はいらっしゃる。やはり、脚が痛い、腰が痛い体の具合が悪い、というような方ばかりのようでございまして、私はまあ出席者の中での最長老みたいなことになるわけでございますね。

えー、ひとつあの、皆様に申し上げたいのは、プライバシーなんですね、個人情報の丸出し、さらけ出すようなことになりますけれども、私の履歴みたいなものを一寸年表に書いて来たんですよ。

それから、仕事の上で私は機械部に十年位おったのですが、機械部で可也大きな仕事も二つ位やったんですよ。その時のアシスタントと言いますか、非常に仕車の上の関係の深い男が出席しておりますので、一寸ご紹介させていただきます。

あの、藤野奉三君ですわ。藤野君、どうぞ！

えー、それじゃまあ、兎に角仕事の上ですね、デッカイことをやったと、まあ自負できることを一つ、二つ位挙げてみましょう。

あれは昭和二十六・七年でしたか、韓国の泰昌産業という所に550万ドルのプラント輸出をやりました。綿紡績機と織機も一緒です。この社長が日綿の株主でもある白（パク）さんという方です。パクさんが紡績工場を建設される時に、私どもの産業機械課のほうですね、私は課長をしまして、藤野が大いにアシストしてくれまして550万ドルのプラント輸出をやったと。これが仕事のうちの第一ですか。

それから、私がバグダッドというところに行きまして、イラク向けのレイヨンプラント、これの国際入札があって、これも大きな金額でしたよ。エー、私は飛行機に乗って国際入札書を持参したわけですね。膨大な入札書をバグダッドへ持って行った。そんなときにも、ドイツのツプリンという会社とターンキー・ジョブ（Turnkey job）をやる。要するに、据え付けて運転する迄というターンキー・ジョブの国際入札なんです。だから、非常にリスクーなんだけれど、これ敢えてねえ、国際入札したわけです。

その時も連日連夜、藤野の力が大きく与っていたのです。

あの、藤野のことをひとつ褒めてやって下さい。

あの、それから何か年表みたいなもの一杯書いてきたんですがね、私はあの、年令は来年2月に90歳になるんです。えー満90の方と学校は同期なんですね。長崎で生れ、長崎で育って、20才の時に日本綿花という会社に入社試験を受けて入社した。同時に入社した方は亡くなった山田一三二さん、私の一年先輩なんですけれども同時に入社した。

それからこの前亡くなった濱田雄三さん、彼も同期なんですね。昭和十四年に二十歳の時に日本綿花に入った。

それからたった一年目にね、ニューヨークへ行けと晋われましてね、おおニューヨークへ、おおほんの一年の若造が大丈夫なんかな、と。だけどニューヨークはね、野田岩二郎さんという方、ご存知でしょうか、

ホテルオークラの会長社長をやった方ですヨ。その方がJapan Cotton & Silk Trading Companyの社長をやっておられた。野田さんが呼んだのか、稚かほかの方が私を推薦されたのか、わからないんですけどね。とにかくね、当時は飛行機もなかったですからね。飛行機に乗せてくれなかったから日枝丸という船でね、日枝丸というのは今横浜につないである氷川丸の姉妹船なんですよ。

九日間位の船旅でした。ニューヨークに行くについては北方航路で、まずバンクーバーに着いて、それからシアトルに移って、そこからグレートノーザンという汽車で大陸をずーっと横断して、確か二泊しながらニューヨークに着いた。

あの一、それがとっても若い時だったし、仕事もまだ覚えてたてだったものですから、綿布のコードブックというのがあって、暗号表ですわね。暗号を引く仕事をニューヨークでやってました。

そしてその当時、そうですねもうね、雲行きが怪しくなってきたんですよ。というのは、戦争がもう始まろうというところだったのね。

そしてニューヨークからは早く帰れ、帰れ、若い人は早く帰ったほうがいいよと、一年数ヶ月居ただけで、龍田丸という船で日本へ引揚げました。

横浜港に着いた翌月の12月8日、日本が真珠湾攻撃をやったのです。。

(以下は後日、筆者による追補)

私は1984年(昭和59年)満65才で退職しまして現在に至っております。

その後、現在も社友の皆様方との関わり合いは切れずに続いております。

今後とも幾久しくあらん事を切に希望して止みません。

先ず食料OB会は、私も出来る限り出席させて頂き旧交を温め度いと思います。

機友会には、何かの手違いで未加入ながら、会員各位のご賛同を得まして、次回以降出来れば是非出席したいと念じております。

最後に同好会です。囲碁の幹事・渋谷義さんの報告の通りですし、その二次会に当たり麻雀同好のサムライ達が技を競い合ってゲームに打ち興じて居ります。私は両方の参加者で万難を排して続けたい方です。

さて以上で、お話が終わっては皆様に大変申し訳ないことになります。

正直申し上げて、去る7月22日の第三回総会懇親会に於いて、私は心ならずも談話を中断いたしました。

振り返って思いますのは、私は半生に当たる45年間、ニチメン本社と関連会社に勤めさせて頂きました。

その間、役9年に及ぶ外地の仕事と生活がありました。

私がこれ等の全国各地で見聞した事柄は、生活と実務両面で、何より実のある経験だったと思ひまして、常に感謝の念を忘れ得ません。

茲に会社ならびに関係上司はじめ皆様方に対して厚く御礼を申し上げます。

終わりに臨みまして、遅ればせではございますが、先般の年頭に於ける社友会で、高齢者三名中の一人として表彰され、お祝いを頂戴いたしました。

何よりの喜びでした。ご高配に心より感謝申し上げ、厚く御礼を申しあげます。

以上にて、失礼して擱筆させて頂きます。

山 口 式 長 寿 の 秘 訣

私が90才になろうとする今日まで生きて来られたその訳は何であろう？長生きの秘訣が有りますかと問われたら、実は自分でもよく判っていません。併しながら次のような事は、別に熟慮した結果云う程のものではないにしろ、断言出来るように思われます。

記

1. 体と心を常に労わる。規則的に快眠する。
2. 体を動かす。運動には無理なく歩くのが一番。私の場合、まだ自転車に乗りゆっくり走ったりします。
3. 快便が重要。快い排泄し決して我慢しない。
4. 酒と食事は口に合うものが良い。(自然な栄養の求め)
5. 好きな事は、頭の体操となりボケの防止に役立つ事を選ぶ。私の場合、毎週外出又は自宅でも囲碁と麻雀のゲームを楽しんでいます。

6. 旅は極力、実現に努める。

私は2000年 ブラジル(7日)、ニューヨーク(7日)、ラスベガス(7日)計3週間81才の独り旅でした。又、2006年長崎に於て小学校同期の人々が集まり米寿の祝賀会をやり私(次女も)が世話役を勤めました。

7. 煙草は私の場合56才までで以後全く吸いません。始めからノー・スモーキングなら最高です。

次に申し上げ度いのは、人生に於て吉凶禍福は予測出来ないと云う事です。私が生きて来られたのは、ラッキーの連続だったと言えるでしょう。

中国故事のたとえに「人間万事塞翁が馬」とあります。何と言い得て妙の至言ではないか。私は禍が転じて福となった体験を持ち実感です。



社友会に入会させて頂いて

廣 瀬 一 彦



過日同期の河西良治さんからニチメン東京社友会への入会を勧められ即快諾、疾きことなやらの如く数日後早速に長谷川世話人さんより、送付された会員名簿と4年分4冊の会報、加えて会報No.4中には大きな桃色の付箋まで親切に添付された08年7月22日の如水会館での親睦会ご案内。至れり尽くせりの心配りに先ず脱帽深謝。その事務処理のスマートさはさすが往年の優秀なる企業戦士。ともあれ二つ返事で早速の入会手続きと懇親会参加連絡。

アイウエオ順に整理された名簿の中から多くの会員の名前を、お一人お一人ゆっくり視力の半分衰えた目で順に拾いながら此処彼処に旧友の氏名を見出した時の大きな喜び。会報の末尾の計報欄に並ぶ一足先に浄土へ旅立たれた諸先輩のお名前が飛び込んできた時の深い悲しみ。今更ながら諸行無常の感慨一入。

その後矢継ぎ早に中メとやらのご指名。中途退社の身分で躊躇いようなものが心の片隅に残っていたが、生来のそそっかしさからブレーキを踏み損ね、親睦会の雰囲気も、中メの意味合いも分からないままOK。ニチメンさん退社後も一度もお会いしてないままに年賀状だけは今日までとぎれとぎれに綿々と続いてきた鉄鋼輸出部時代にお世話になった柿本さんにお逢いできるだろうと期待して、親睦会当日定刻12時の半時間前に乗り慣れぬ地下鉄に揺られ路を両3度ほど・駅員・通行人に聞きながら遠回りしてやっと辿り着いた会場。

参加人員約250名？あの顔、この顔。どの御仁も懐かしい。大部分が30年・40年ぶりの対面。その表情のどこかに残る昔の面影。その言葉の端々に残る昔の抑揚。般若湯・忘憂の杯を片手に胸の名札でお名前を確認しながらのご挨拶。50数年前の近三ビル時代が走馬灯のように脳裏をかすめた。

あっという間に2時間経過。定刻2時に司会者に尻を押されるように合図されて中メの壇上へ。心地よい酔いに任せて声高に壇上から1声2声そして3声、大声で何かをしゃべった覚えはあるものの、その中身についての記憶は皆無。明白に臉の端に残っているのは出席者皆様の輝くばかりの満面の笑顔。今も耳に残るのはOB皆様の元気な若々しく力溢れる唱和。心温もる親睦会でした。楽しい懇談会でした。

親睦会から2週間ほど経て、全く予想もしてなかった電話。その内容は、当日編集の幹事さんが偶々席を外していて愚生の中メ発言を聞き漏らしたので、その中身を簡単にレポートとせよとの依頼。ショック！！八十路を前にした認知症が進行中の後期高齢者。今切ったばかりの電話の相手が誰かさえ思い出せない昨今。況や10数日以前の酒の席でのおしゃべりの内容を思い出すことなど至難の業。再三お断りをしたものの、会報の編集長さんの熱意に押し切られ、新入社員の時代を振りかえって思いつくままにしどろもどろの駄文を認めた次第。

1ドル360円。ポンド1120円？ 闇ドル換算レート400円。身分6等社員の月収手取り7000円弱。背広は夏冬1着づつの着たきり雀。靴も1足だけ。

パチンコは38式歩兵銃紛いで沢山出ても3.ヶ。年1～2回年末払いの神田駅高架下の飲み屋。酒は専ら三級。ウイスキーはまだ高値の花。経理部での売掛金・買掛金に始まった勘定別帳簿記入。学校で習ったそのままでの手書き会計伝票。

5つ玉の算盤。週一回通った簿記学校。英国通貨ポンド・シリング・ペンス計算で換算表を手に、ハンドルをガチャガチャと前後に回した計算機。下手な文字で手書きした小切手。辞書を片手にどうやら読んだ仏文のL/C。月末毎の銀行当座バランス照合計算。主力外為銀行は東銀のみ。今でも夢に見てうなされる収納木箱の奥底から出てきた紛失したと覚悟した200万円の小切手。生きた心地はなかった。

月1回ほど回ってくる夜11までの残業受付当番。お手当て翌日現金払い400円？ テレビはビルの後の敷居が高かった喫茶店の白黒テレビ若しくは駅前広場のテレビ。ビルマ語・西語の放課後研修。週一度東大柔道場での練習。練習後は仲間と「薔薇色の人生」だけが繰り返し流れるストリップ劇場。湯ヶ島での中国語会話学習。

ロンドン駐在が内定してからの中野自動車教習所通での財政をピンチにした仮免代12000円。急遽南米要員といわれ独身は不可ということでの嫁探し。

経理部から移籍配属された鉄鋼部は業界大手の八幡製鉄や富士製鉄などからは綿屋と呼ばれ輸出向け玉乙波を直接頂けない揺籃時代。五星紅旗が目眩しかったホテルの1室でやっとこさ成約に漕ぎ着けた中国五金司との商談も長崎の国旗焼却事件でキャンセル。沖縄向け鉄パイプ。エチオピア向けの亜鉛鉄板。ビルマ向け鉄鋳。ブラジル向けバーブドワイヤ等の中小メーカーさんからの雑貨の小口商売が主流。折角の大口商談引き合いも物産・三菱・木下などに後から追いかけられ終わる始末。

今思い出しましたが3綿共同商談もありました。巷にはまだぼんやり存在した赤線。盛り場の路地には白衣義足の傷病復員兵のギター・手風琴のメロデー。曲は「青い芽を吹く・・・」「今日も更け行く・・・」。海外渡航持ち出し外貨500ドル。海外への旅客機はまだ4発プロペラ機・・・

顧みれば1983年中途退社してから早くも4半世紀の歳月が流れました。この間、教職10年、僧職15年の間約10年にわたる地球の裏側ブラジル僻地での浄土真宗大谷派開教使としての布教活動からやっと解放され、玉手箱代わりの喘息を抱える今浦島となり昨年帰国。

消費税は28%から5%へと激減し買い物の都度儲かったご機嫌気分と申し訳ないような気分。。鍵も掛けず窓を開け放したまま夜を過せる泥棒・ピストル強盗のまだまだ少ない平和な環境。異国では味えない祖国日本に生かされる仕合せ。

ここまで不思議に生命永らえ、ご縁を頂いたニチメンさんOBの懇親会に出席させて頂き本当に有難うございました。皆様にお逢いできてより明るく生きる活力をたくさん頂きました。

副作用に怯えながらの薬漬けの生命がまた少し延びそうです。

空しく過去の栄光を追い求めることなく、残り少ない将来に望みを託すこともなく、お釈迦さまの説く無我の我の自分を灯火として、本願名号に今日を生かされる生命に感謝し、一隅を照らしながら念佛無碍の一道を歩ませて頂く刻一刻の生活に乾杯。

ニチメンさん社友会万歳。幹事さん方ご苦労様でした。今後も宜しく。

合掌 南無阿弥陀仏

故古谷野役士さんの思い出

矢 吹 敦 司

私の、古谷野さんとのお付き合いは、1958年にニチメンがインド国鉄と鉄道電化工事契約を結んだ時からです。当時 東京機械部電気機械課の課長をされていた。

1958年、には、インドの電化工事の本部が在った、カルカッタのニチメン支店長に就任され、一方、私はこの仕事の関係で機械部に移り、同じく、カルカッタ支店に赴任しました。

工事の現場となった、ウエストベンガル州の小さな町、プルリア（人口十万人、カルカッタから、夜行列車で一晩の距離）現場事務所を設営、日本からの工事関係技術者18名と駐在する事になった。

古谷野さんはカルカッタ支店で一般業務と共にカルカッタのインド電化本部との打ち合わせ、折衝をされていました

1959年3月に着工した工事は約一年半後に無事完工。私にとっての貴重な経験が出来た一年半でした。日本の国鉄も此の工事の経験は新幹線に随分役に立ったようです。

私は、カルカッタ支店に戻り、古谷野支店長のもとで機械部関係の業務をやっていました。

カルカッタで勤務していたときに、皇太子御夫妻が（今の天皇陛下）が新婚間もない頃、お二人で初めての海外旅行をされ、カルカッタに立ち寄られた時、カルカッタの総領事官邸で皇太子御夫妻ご出席のもと日本の駐在員、その家族を集めての、ガーデンパーティが開かれました。

御夫妻が、ニチメングループの席にいらしたとき、案内の方が、国鉄の電化工事をやられたニチメンさんですと紹介を受け、私がお説明申し上げました。

殿下は、「それは、ご苦労なお仕事でしたね」、と云われました。

古谷野さんはその時、総領事などとVIPの席におられ、我々のところから少し離れていました。

パーティ終了後、古谷野さんが、我々に、君たちの席から「デンカ」、「デンカ」と云う声が聞こえてきたので殿下のことかと思い、心配したよと云われました。

私はインド駐在二年半後に古谷野さんと一緒に帰国しました。

古谷野さんは機械本部長、香港支店長、帰国されて東京機械部管掌の取締役、そして常務になられた。

私は、その後、建設部に移りマンション建設分譲などをやっていましたが、古谷野さんは、ニチメン退社後、東京豊国不動産の社長になられ、私は、また、古谷野さんと接触を持つ様になりました。

永いお付き合いで、ずいぶん、一緒に酒を飲んだり、ゴルフをしたりしました。

お酒は強い方でしたね。おべんちゃらはあまり好きではなかったですね。お人柄は公正な実務家と云う感じでしょうか、着実に積み上げていって成果を上げるという方だと思います。

今年の6月頃、古谷野さんは大分弱っていらっしゃると聞いたので見舞いに行こうと思い古谷野さんの近所に住んでおられる元機械部の藤野さんに相談したところ、最近面談するのは疲れますのであまり好まないようである、電話で話す方がよいのではないかと忠告されました。自宅に電話したところ古谷野さんは電話に出られ、「しょっちゅう医者通いだよ、こんなに長生きするとはおもはなんだよ」といわれました。

そして、8月17日亡くされました、93歳でした。

私は、天寿を全うされたと思っています。

生前ご厚誼を感謝し、ご冥福をお祈りします。 合掌

「今をしっかりと生きるために」後日談

岩 下 恒 則

今年の春私のブログ「トーマスの独り言」に「今をしっかりと生きるために」と題して以下のような文章を書いた。

「私は生まれてこのかた進んで善を修める志を持ち一度も罪過を犯した事はない。同時に私は仏・法・僧を尊び日日勤行に励み、諸神を尊重し、一夜としてつつしまなかった事はない。然るに私は一体何の罪によってこの様な重病（痾）（後註）を得たのだろう。

今年74歳で頭髮はすでに白さを交え、体力は衰えている。老齢に加えてこの病がある。手足は動かず、関節は全て痛み身体は大変重くて鈎石を背負っているようである。

老と病が誘いあうかのように朝夕にわが身を侵して競いあっている。もし不幸にして長寿を得られないなら矢張り一生病気に患わされる事のない事をもって大きな幸せとすべきであろうが、今私は病気のために悩まされ寝起きも思うようにならない。不幸の最たるものが全て私に集まっている。世に「人が願うと天も応ずる」という。もしこれが真実なら、どうか伏し願うことにはすみやかにこの病気を取り除き平生のように幸せであって欲しい」{山上憶良 沈痾（ちんあ） 自哀の文（万葉集巻五）より抜粋、中西 進「万葉集」講談社文庫（註）痾（あ）一こじれた病気}

およそ1,300年前の天平万葉の時代、あの貧窮問答歌で有名な山上憶良によって書かれたこの一文が二十一世紀の今日でも何と切々と心に響いてくることか。宮廷歌人であり遣唐使まで勤めた憶良にしても忍び寄る病にはなす術が無かったのだろうか。ブッダではないが山上憶良に限らず人は生老病死一生まれた時から既に死が始まっており仮に長く生きたとしても老いや病苦に悩まされるものだ。

今年の年賀状で私は高浜虚子の俳句「去年今年貫く棒の如きもの」を引用して、老病死に向かって続く一本道を夫婦二人互いに助け合って歩いて行くつもりだと書いたが巷に云われる如く「生の完成」した姿が「死」であるにしてもそれに至る過程で老・病をさける事が出来ないのが人間の宿命というものであろう。

現に私の場合、それまで身体には人一倍自信があったのだが3年前の1月古希を祝ったのも束の間そのすぐ後の人間ドックで引っかかり2月に直腸癌（6.5センチ切除）11月に肺癌（左肺1／2切除）と年2回も手術を受ける事になった。幸い2回とも術後の経過が良く体力は順調に回復、週に3－4回はジムにも通えるようになり、この分では癌ともおさらばか・・・と思っていたのだが丸2年経過した昨年11月末今度は右肺中葉に転移が確認された（この間抗ガン剤を毎日服用していたにも拘わらず）。年末よりの度重なる検査の結果今回は場所的に手術不可能との判定が下され、今年2月からは腫瘍ブロック剤（アバスチン）、抗ガン剤の点滴治療を月2回のペースで受ける羽目に立ち至った。

私も山上憶良のように人一倍健康に気を配り人並みに運動もし努めて真面目な生活を心がけていたのに、どうしてこんな目に・・・と嘆きたくもなったが憶良のごとく嘆いてばかりでは前へ進まない、ここで負けてはならじと今後の生き方を色々考えた結果先ずは「食事革命」に取り組むことに。日常生活を真面目に生きてきて何故こうなったかとつらつら考えて見るに、もう残っているのは食事内容の見直ししかないのでは？・・・と考えた結果である。

偶々前回入院時知り合った75歳の男性から玄米食の良さを教えて貰い・・・そうだ、これから始めよう、食



生活を玄米食、魚、有機食品を中心とした食事に切り替えてみる、つまり私にとっての「食事革命」の開始である。

食事革命と云っても特別なものではなく日々の食事から肉、卵、牛乳と言ったガン細胞を育成・増殖させるような食材を排除し、免疫力をアップする体内酵素（エンザイム）を増加させる食品つまり玄米、魚類、有機野菜、海草、納豆・豆腐に代表される大豆食品などに切り替えるだけの事である。

前回退院の3月7日から早速玄米食に切り替え今日で約3週間経過したが短期間にも拘わらず既に排便にはっきり効果が出てきたのには正直驚いている。私としてはこの食事革命によりこれから一年後、三年後に腫瘍がどうなっているのかをチェックするのが大きな楽しみとなって来た。この効果を確かめるためにもガンに負けずにしっかりと毎日を生きて行きたい。

後日談

上記を執筆したのは4月2日の事だが是には以下のような後日談がある。梅雨が終わる頃から疲労が溜まりやすくなってきた今年8月の始め市の高齢者メタボ健診の際、タンパク質を始め数値の一部に可成り低いものが見つかり担当医から「結核患者が栄養食品で精を付けるように癌患者が抗ガン剤に打ち勝つためには先ず体力をつけるのが大事。身につく食べ物をしっかり採るように・・・」とのアドバイスを受けた。そは一大事・・・その日から早速肉、卵、牛乳と言った食べ物も少しずつ採り始めている。お陰で疲労感、倦怠感も抜け何とかこれまでと同様元気な日常生活が続けられている。東京慈恵医大での検診では腫瘍の方も段々縮小し始め色も薄くなってきており今年2月から始めた治療が6ヶ月目にして漸く効き始めたようで前途が明るくなったのは非常に有り難い。

身心一如・・・身体が健全であれば心も生き方も前向きになれる・・・と信じて発病以来努めて身体の健康に心を配ってきたが何事も極端は禁物なることを今回身にしみて感じ、更に又病気に打ち克ち身心共に健全な生活を維持するのは大変な事だと今更ながら痛感した次第。兎にも角にも自分で掘った畑の穴に落ちて死んでいた元気なお百姓さんの様に出来ればピンピンコロリと我が人生を全うしたいものだ。

「点滴のしずくまろやか梅雨に入る 恒則」（俳句結社「門」08年9月号）



「駐在地＝紛争地 回顧」

大 谷 毅丈夫

ここ半世紀を後世の史家は「混乱と不安の時代」と呼ぶかもしれませんが、冷戦構造の残る中 古くて新しい宗教対立と民族紛争が資源争奪と社会的格差と相乗りする形で激化しているように思えてなりません。

偶々 それら問題地域に駐在していたので生活者の視点を振り返りながら、見つめたいと考えます。

(1) スーダン (1963年10月～1966年1月)

新婚一月で单身たどり着いたカルツームでの初日はナイル川連絡船のキャビン。

蒸し暑さと蚊の来襲で同室の黒人と一晩中ぼやきながら過ごしました。その黒人は西アフリカから来たと言っていたが、カルツームなど首都圏で黒人は家事労働か工夫位しか目につかない少数派でスーダン全人口の25%の黒人のほとんどは南西部に住んでいるとの事でした。

私も借家に住まうようになってからは、英語が話せて食材制約のない黒人キリスト教徒を雇いました。

スーダンとはアラビア語で「黒い人」を意味し元来はサハラ以南を指す地域名称ですがスーダン共和国は歴史的には東スーダンと呼ばれエジプト次いで英国の支配下にあつて1956年に独立したばかりの当時の新興国です。

全人口の75%を占める北部アラブ系は北緯10度以南に行く事を1924年以来禁じられ交流の希薄なまま北部主導で一括して一国として独立し以後、政治・経済の主体は北部が握っており格差に苦しむ南部の抵抗が続いてきました。

我々外人には南部にはアニヤニヤ（毒虫、抵抗組織のこと）がいるから絶対行くなと言いながら黒人子女を買い付けて来て家事に使用している例もありました。

（奴隷売買は古く9世紀イラクの「サンジュの乱」で黒人奴隷が加わっていたと言われており金と共にサハラ以南が供給源でした。奴隷といってもゆるやかな扱いで1966年の市民革命で倒れた軍事政権のアブード将軍は、もともと奴隷階級の出身だと言われています）

文字を持たなかったサハラ以南の人びとや歴史については、近代に至るまではほとんどアラブ人による記述に頼る外ありませんが侮蔑的差別的表現に満ちており現代にまで根深く繋がっているようです。

カルツームから白・青両ナイルの合流点を越えた砂漠の入り口に東スーダン最大の市場であるオムダーマンがありそこに日本企業が最初に事務所を作り商人たちとの交流を深めていきましたが一日に二往復するのが大変で運転手を雇いました。お酒を飲まないアラブ人にしましたが我が家の家事労働全部をきちんとやってくれている黒人に偏見があるようで侮蔑的な言動がもとでしょっちゅう取っ組み合いの喧嘩をして双方を引き離すのが大変でした。

こういう風土の中で1990年代後半からの石油など地下資源がらみで南部独立闘争が激化し貧弱な武力しか持たない黒人勢力がアラブ側に一方的に殺戮されているのがダルフル問題です。資源利権のおいしさを既に味わった北部が再び惨めな「最貧国」への道に戻ることはまず考えられません。南部にゆるやかな自治を認め、資源メリットのなるべく公平な分配を誇り高いアラブ人に訴えていく努力をやるべきだと考えております。

そして安全な国になったらヌビア砂漠の古代遺跡、ゲジラ（中ノ島）での一面の綿花畑、ナイル合流点の五千メートルに亘るダムなどを再見する機会を得たいものです。

(2) ナイジェリア (1969年3月～1974年9月)

私が赴任したのは二年前に勃発したビアフラ戦争の最中でしたがニチメンの先輩方のお陰で快適な生活圏を確保することができました。店先にはきれいなパッケージがならんでおりさすがとは思いましたが後でこれらは戦争激化で離国したヨーロッパ人が残したペットフードだと判り少しがっかりしましたが港

の冷凍倉庫から日本向けの海老や鯛を買う事もでき、夜間外出禁止令や停電も早寝早起きの人には許容の範囲だったと思います。

ビアフラ戦争は1970年に、北部ハウザ族と南西部ヨルバ族中心の連邦軍の勝利で終わりましたが敗れた南部イボ族との根深い対立は石油利権配分の透明化が進み一部の利権独占が終わらない限り続くでしょう。

1914年 多種多様な部族や宗教の人びとを一括してイギリス保護領とした時から地域対立が激しくなり、特にイスラム教徒との軋轢回避のためキリスト教の伝道と教育が南部に偏重されたのでイボ族は経済や語学・実務に強く独立心も段々強くなってきたので是に対抗してイギリスは比較的従順だった北部人を軍部に重用するようになり部族がそれぞれの得意分野で目立って台頭してきた事も国家分裂の土壌になっていたように思います。

一般に部族連帯の強固な後進国では「政治はお金獲得の場」と考える一部有力者にとって自分の部族こそ最大の支持母体であり部族・一族への権益のおすそ分けは必然です。

政権上層部のことは良くわかりませんが入国カスタム手続きで不愉快な思いをされた方も多いでしょう。イスラム圏の「バックシーシー」には多少同情心も惹起されますがビジネスライクに「ダッシュミー」と手を出されると正直ムカッとします。政府への申請書類の迅速処理（申請書の山の一番上にわが申請書を置く）も一苦勞でした。

でも善悪は別にして、日本からの救援米が入港その日のうちに我が家に売り込みがあった時は正直その機能的な動きに感心しました。

北部カドナに移ってからは緊急時に備えて機動隊長の奥さんに工場の食事場を任せたりキリスト教系の病院へはクリスマスになると、雪の代わりに脱脂綿を持ち込んでツリーを飾ったりそれなりの交流もありました。

戦後のビアフラ地区にも出張しましたが焼けた山林にはまだ戦闘機の残骸がありカドナから持ってきた弁当を食べ終わった後は敢えて名前を尋ねる勇氣もないまま硬い何かの肉を食べていました。原油採掘地帯に住む少数部族は立ち退きを命じられたが行き先もなく濁った水辺にかたまっていました。

この部族の生存運動の指導者は欧米の反対にもかかわらず死刑に処せられ、軍隊の嚴重管理下で一般国民の声で政治が動く（動かざるを得ない）ような状況が何時の日来るのか全くわかりません。

「世界の評価」と言う重い十字架を背負うのはナイジェリアだけでなく、先進国・周辺諸国も同じです。

我が日本も自衛隊派遣論争より手っ取り早く（簡単ではないでしょうが）日本人がお得意な大量且安価な製法を開発してHIV・マラリア・小児麻痺・結核などの薬品を提供する事ができれば多くの後進国の苦しんでいる人たちが救えるのではないかと考えます。

すでにアンゴラでは一才児は徐々にですが結核予防接種が受けられるようになり、またロックフェラー財団のエイズワクチン推進組織はケニアで臨床試験を始めたと聞いています。薬の民衆への直配なら途中で奪取されることも少ないでしょう。

（3） ユーゴスラビア（1984年2月～1987年1月）

雪に覆われたベオグラードの街角には焼栗のかぐわしい香りが漂い、うまいワインや肉料理に感激している間はこの国の抱える根深い問題の存在をあまり意識する事はありませんでした。「ユーゴーはいいよ。ユーゴー」などとおっしゃった方は 多分短期逗留だったのでしょうか。

ユーゴーの人と現地語でせめて挨拶ぐらいはできるようにと買ったのが「セルボ・クロアチア語辞典」でどうも主要民族の言語を人為的にまとめたものらしい。そもそも1918年のはじめてこの地に南スラブ人の統一国家が建国されましたがその国名が「セルビア人・クロアチア人・スロベニア人王国」というまとまりの悪い名称でした。

第二次大戦中クロアチアではドイツに従いセルビア人狩りで30万人を殺し、それに対抗してセルビア民族主義者たちはクロアチア人を攻撃して20万人の犠牲者が出たといわれています。

相互の憎しみはパルチザンを指揮して勝利したチトーの影響力が続いている間は顕在化することはほとんどなかったと聞いています。しかし、セルビア人が大量に犠牲となった日時にはその場所で人びとが一斉に倒れ伏し当時を思い起こす行動をとることなど根深い恨みを感じます。わが社の運転手はセルビア人

ですが他の共和国では道を聞いても知らん振りをされたり、望遠鏡で鳥を追いかけていた時には土地の警察に捕まったりあまり親切にしてもらえなかったようです。

果たして、1991年になると旧ユーゴスラビアから各共和国が独立を宣言、特に怨念が深く利害が厳しく対立しているセルビアとクロアチアの間で激烈な戦闘が始まりましたが1995年 NATOの介入で不安定ながらも収まりをつけています。

NATO軍は1999年セルビア国内を空爆、セルビアからの独立を求めているコソボ自治州に高度の自治権を持たせ独立に向けて一応の足がかりを作りました。この岐阜県ぐらいの土地での争いは14世紀ごろ中世セルビア王国がこの地で生まれた時からそれまで父祖の地だと思っていたアルバニア系住民との間で始り以降民族間の争いが続いてきました。

一握りのセルビア人官僚が大多数のアルバニア系住民を支配する中で経済格差も広がりました。セルビア側も「物を恵む」気持ちはあっても建国の聖地を手放す事は考えられずロシアなどの後押しで独立には猛反対を続け緊張は続くものと考えられます。

以上駐在地回顧は民族間の厳しい話が付きまといましたが、一般人同士で付き合った人々との思い出はとても懐かしく思い出されます。国民の声に耳を傾けない首相が長持ちしないわが日本に住む有難さを感じざるを得ません。

この幸せを感謝しつつ小さい秋を楽しみたいと思っております。



1965年スーダン・カルツームにて
少数民族コプト派の結婚式で（右端に筆者）

老人残日抄『グローバル化ということ』

松 村 昭太郎

餃子に始まってうなぎ・ミルク・米と中国製食品に対する講義はいまや世界的な話題になった。最初は何とか頬かむりをきめ込んだ中国だが5万人もの幼児が病気になっては捨ててもおかれない。中国政府の対応が関心の的となってきた。

中国食品の有毒性については今に始まったことではない。にも不拘→日本は野菜等の生鮮食料から加工品に至る迄中国依存を拡大し続けてきた。市場原理主義尊重で安かろう、悪かろうの一途拡大である。こうなると政府はいったい国民の安全と健康を考えているのか、と開き直りたくなる。世界第二の経済大国などと全く情けない極みだ。

そういう僕も威張れたものではない。1960年頃（約50年前）僕は大阪本社でアフリカ向け繊維輸出を担当していた。スク・人絹織物を加工して販売するわけだが外貨手取り率の高い化纤は赤字でも輸出競争を強いられていた。日本の外貨保有率が20億ドルの時代で今と比べれば月とスッポンである。

或日僕は見本の布地を少し家に持ち帰った。コタツの上掛けがほしいと妻に言われたからだ。1週間後、帰宅した僕はいきなり怒鳴られた。

「あんた一体何というものを売ってるの。此間持ってきたコタツの布、洗ったら色が浸み出してクシャクシャになっちゃった。よくこんなもの売って恥ずかしくないの。」

当時のアフリカ向けはコマーシャルカラーという一番安物の染料を使っていた。アメリカ向けはウォッシュブル染料で原布も綿布だったと思うが、後進国向けは安かろう悪かろうの粗悪品の全盛時代であったのだ。一回洗濯したらパーとなる品物を扱っていたわけで今となって考えてみると全く恥ずかしい極みである。これが食料品だったら殺人者といわれても仕方がないだろう。

その結果としてアフリカに20年近くも滞在となった僕だが勤務先の合併紡績では多くの貴重な体験を得ることが出来た。その一つは出身国によって相異がはっきりしている企業・個人の安全性に対する考え方である。中国系・インド系の企業は社会倫理について我々とは相当に異なった考えを持っており従業員に対する福利厚生でも違っていた。ヨーロッパ系（主として英国）企業は日本と大体同程度と思ったが、後発の分だけ日本の方が進んでいた面もあった。

プリントのデザイン権についても我々は日本のデザインセンター（英国と協調して作られたデザイン権保全の機関）に登録したもの丈を製造したが、中国・インドにはデザイン権等というものが無かった為に野放しの状態で何度かトラブルを生じた記憶がある。要するに新興国が幾多の規制・法整備を整えるには時間がかかるということだ。

特に中国の如く大国で、コピー作りにかけては天才的な国については受入れ側で万全の注意を払うべきである。徒らに手を攻撃等すべきではない。

それにつけても日本は敗戦のどん底から営々と努力を続けてもの作りにかけては欧米と引けをとらない国となった。僕は日本の成し遂げた努力に対し国民がもっと自信を持ってよいと思う。同時に今後の国作りに就いて将来を見据えた総合的な配慮をする必要を痛感する。双日の将来を背負う若い人も多事多難の毎日とは思いますが常に将来の世界を考えて仕事に取組まれる様切望したい。社会倫理・人権は毎日前進している。あおれがグローバル化の重要な一面と思う。



『世界の言語』(私の語学遍歴)

澁 谷 義

ニチメンOB長谷川洋さんも参加されているYCEC（横浜時事英語クラブ）の月例研究会発表のために上記の題でA4・10頁程の資料を作成した。この度、ニチメン東京社友会・会報誌に掲載すべく、興味深いところをピックアップして、下記のごとくまとめた。

世界に存在する言語数は7千にも及ぶ。国連加盟国は192か国だから、一か国で30以上もの言語が使われていることになる。

以下、世界の主要な言語について、参考資料と私の学んだ経験を交えて記述してみたい。

- 1) スペイン語：スペイン語は、フランス語やイタリア語と同じく、ローマで使われていたラテン語を祖先とするロマンス諸語の仲間である。ラテン語系の言語は、主語の人称や時制によって動詞が複雑に活用するので厄介であるが、スペイン語の発音は日本人には容易であり、巻き舌Rの発音が少々難しい位である。大学の第二外国語はスペイン語であり、NHKのラジオで多少勉強したが、進歩は遅々たるものである。
- 2) ポルトガル語：人口1千万人程のポルトガルであるが、ブラジルなどポルトガル語の話者は、2億数千万人に及ぶ。鼻母音の種類がフランス語より多い。日系ブラジル人の女性から「おいしいヘストランへ案内してほしい」と言われて、キョトンとした覚えがある。
- 3) イタリア語：音楽用語のほとんどは、イタリア語である。NHKのラジオで、勉強しているが、スペイン語と同じく、発音はやさしく日本人には馴染みやすい。
- 4) フランス語：アングロ・サクソンへの伝統的な反感があるフランスであるが、言語的には、英語の祖先ゲルマン語とフランス語の祖先ラテン語は、共通のインド・ヨーロッパ祖語と呼ばれる祖先に遡る。
フランスの旧植民地ギニア、カメルーンなどのアフリカ諸国、中米ハイチ、カナダのケベック州などが、フランス語の話者である。
2001年夏、カンヌのカレッジに20日間宿泊、パリーに8日間滞在して、フランス語の特訓を受けたが、R（エール）の発音とリエゾン（連音）には苦戦した。
フランス語は英語に次いで勉強している。何故フランス語に魅かれたか？フランス語の鼻に抜ける甘い発音に魅かれたが、動機は些か不純であった？美人のモレシャンが若かった時のNHKテレビのフランス語講座に魅せられ、フランス語を習い始めた。フランス人のシャンソン歌手に習い、フランス語でのシャンソンもカラオケで馴染んでいる。
- 5) ドイツ語：第二外国語といえば、かつてはドイツ語であった。今や医学用語も英語が主流である。歴史的にドイツ語が果たしてきた貢献は忘れないが、ドイツ語の地位は内外で低下していることは否めない。Winter（ヴィンター）、November、Fisch、Jung（ユング）、Japan（ヤーパン）、Tee（ティー）など、英語とほぼ同じ単語も多い。
- 6) ギリシャ語：ギリシャ文明の偉大さは、今更語る必要もない。 $\alpha \beta \gamma$ などのギリシャ文字でつづられた真正の古典ギリシャ語最古の文献は、ホメロスの叙事詩『イーリアス』と『オデュッセイア』であり、紀元前8世紀頃の作とされる。
- 7) ロシア語：インド・ヨーロッパ語族スラブ語派に属する。キリル文字を使う。ロシア民謡に学生時代から親しみ、ロシア語でも歌ってきた。

8) ラテン語とサンスクリット語：ラテン語、それはローマ国家の言語である。ラテン語の文化的影響力はローマ国家滅亡後も、ローマ国家の健在時代に蓄えられた文化的威信のせいで衰えることはなかった。英語にしても、ラテン語という隠された宝蔵なしには成立していない。ラテン語は、世界で一番長大かつ詳細なる家系図を作り得る言語と言える。

アジアでは、サンスクリット語が、長大なる家系図を誇る言語である。日本では、梵語（ぼんご）として知られている。古代インドで多くの宗教文献を生み出し、ラテン語同様にそれを話せる人がいなくなった現代において、文語としての地位を保っている。

9) インドネシア語：200以上に及ぶオーストロネシア語族に君臨するインドネシア語は、隣国のマレー語と同じである。第二次世界大戦中に日本の支配で、マレー語がインドネシア語と公式に呼ばれるようになった。1945年の独立で、正式の国語となった。インドネシア語の発音は日本語と大体同じで難しくない。文法は主語・動詞・目的語で英語に似ている。

10) フィリピン語：8500万人の殆どが、英語を流暢に操る。ルソン島のタガログ語が英語と並んで公用語である。セブアノ語、イロカノ語などの諸言語と同じ、オーストロネシア語に属する。接辞があり、日本語と同じ膠着語的な特徴をもっている。

フィリピンのマニラに2年4ヵ月駐在して、フィリピン英語に馴染んだ。スペイン語の発音に影響されている。オーペンドール（open door）、ペルミット（permit）、マカトール（MacAthur）など、フィリピン英語の発音に親しんだ。文の語尾を上げる発音も特徴であり、親しみが込められている。

11) 中国語：北京語が普通語だが、香港・広東省・東南アジアの華僑が話す広東語や台湾語は、別の言語と分類される位の違いがある。台湾先住民の高砂族の言語は、オーストロネシア語族に属している。

中国語（北京語）もNHKラジオでかなり勉強した。簡体字はかなり覚えて、中国語も読めばある程度は理解できるが、発音が難しい。

12) 韓国語：韓国語の発音は少々難しい。ハングルには、基本母音が10個、二重母音が11個と基本子音14個、二重子音5個の全部で40個ある。子音には平音、濃音、激音がある。子音で終わる音節があり、パッチムという。NHKラジオで少々勉強して、ハングル文字はかなり読めるようになった。

一方、文法は日本語と驚く程似ている。語順が同じであり、単語と単語をつなげる助詞の使い方も似ている。15世紀に作られたハングルを用いて表記される。

韓国語は語順に濁音がないので、ゴルフはコルプ、ビールはピール、バナナはパナナと発音される。

13) 日本語：8世紀の万葉集や古事記、平安中期の源氏物語など世界に誇れる文献が残っている日本語である。学問としての日本語系統論は現在停滞状態である。琉球語とアイヌ語が日本語と親戚関係にあるが、日本語のルーツが不明であるのは不思議である。

朝日カルチャーセンターのエッセイ教室に学ぶこと8年余になる。エッセイの楽しさを味わっている。

14) 英語：英語を日常的に使用している人は、10億人を超えるが、英語の起源はまことにささやかなものであった。ゲルマン諸部族の移動で、ヨーロッパ北部に住んでいたアングル族、サクソン族、ジュート族が5世紀頃ブリテン島に移住し、彼らの言語を基礎として、でき上がった英語であった。

アメリカに駐在して苦労したのは、南部英語と黒人英語であった。ロンドンの民衆英語であるコックニー（cockney）と共通するオーストラリア英語も、慣れないと難しい。

以上、世界の主要な言語をとりあげて、私の言語遍歴を合わせて披露してみた。言語の習得は容易ではないが、「語学の勉強は脳の活性化に役立ち、ボケ防止になるよ」と、長谷川洋さんが励ましてくれた。街で外国人が地図など広げていると、自然と“May I help you?”と話しかけるボランティア活動？をしている。

『大阪中之島から東京昭和通りへ』

田 村 昌 久

(一) 入社の頃

私が入社したのは1960年4月1日でした。中之島本社の大会議室に新入社員が集合した。当時の社長は岡島美行様でした。私の配属先は運輸部船舶課である。

この課の主要業務はニチメンの輸出入荷物の船腹と海上運賃の取極める事が主要業務でありました。当時の商社で全品目貨物を一元的に取極める組織は珍しく、他商社では商品部門別に各受渡部で行われていたのです。ニチメンの運輸部創設は1953年で初代部長は芦田源三様（取締役）で、二代部長は足立昇一様、三代部長は安藤義長様（後監査役）、四代目は田中康夫様でありました。

私が入社した1960年当時は、いわゆる大運輸部時代で、「船舶課」「受渡課」「輸出課」「保険課」「総務課」の五課制であり、当時の中之島本社の二階フロアの約半分のスペースを占めていた。この部の先輩方は俊英揃いで、後に役員になられた方々が多数おられたのであった。

筆頭は伊藤俊朗様、田淵道弘様、石原靖造様、杉本佳久様がおられた。加えてバンコック支店長を歴任された池田 宏様、カルカッタや海外店駐在の後に帰国され、原動機部長になられた長谷川 洋様 船舶部からロンドン駐在を経て原動機部長になられた泉 伸夫様がおられた。私は運輸部船舶課で泉 様から業務引継ぎを受けたのであった。東京支社に運輸保険部が設立されたのは、1963年で初代部長は繊維部から来られた種野 収様であった。

(二) 東京へ転勤

1979年9月1日に東京本社運輸保険部に転勤したのは、当時、東京に管理部門の本部組織が集結しつつある状況に鑑み大阪から東京へ転勤が続々生じていた。

私も南柏のニチメン独身寮に入寮した。東京運輸保険部長は田部井芳郎様で、この方とはかつて大阪の錦糸布部におられたので面識があったのであった。

同時に、社団法人「日本荷主協会」運賃委員会アジア部会長を務められておられ、業界活動にも積極的であられた。

(三) 物流本部の誕生

日比野哲三社長時代に物流本部がスタートし、初代本部長には松田 實様が就任された。二代目は大久保海生様、三代目は河西良治常務取締役、四代目は野崎 紀 取締役であった。東京運輸保険部は海運課、保険課、航空貨物チーム、貿易保険チームであったが、松田本部長は通信部のメール課を運輸保険部に編入され（後に㈱ニチメンエクスプレスサービスの設立につながった。）本部には運輸保険部（東・西）に加え、物流総括部が創設され、初代部長には漢城浩一様が就任された。

話は戻るが、東京運輸部時代の最大の仕事は自動車部が成約された、本田自動車工業㈱のアルジェリア向けの乗用車3,000台については自動車専用船手配が必要であり、日本郵船㈱や商船三井㈱の自動車専用船の用船が必要であった。少し余談になるが、大型コンテナ船以前の在来貨物船時代の欧州航路の定期船は超満船状態で、サウジのジェッダや、イタリアのジェノア、ドイツのハンブルグ向けの船腹確保は相当大変であったが、しかし総合力で何とか確保出来たのであった。加えて言うならば、東京建設部の大阪セメントの輸出船腹確保も同様であった。

バンコック向けの富士車両の貨物車、客車の輸送についても大型重量物専用船チャーター経験があったので、こうした若い頃の実験が大いに役立ったのであった。

(四) 海外出張の経験

私は大阪、東京勤務のみであり、海外での駐在はありませんが、日本荷主協会での業界活動などで、韓国の釜山、ソウルに二回、香港に二回、スペイン（ビルバオ）・ロンドン、星港、に一度ずつ行っております。1981年には米国鉄道規制緩和の影響について各港湾局や鉄道会社の施設を訪問しました。1982年9月にシベリヤランドブリッジコンテナ輸送100万個輸送達成記念祝典にロシア船“バイカル号”で横浜/ナオホトカ往復の航海で行きました。そして、ナホトカの「異国の丘」にも登りました。1984年にはイラン・イラク戦争の為、イラン港湾に船舶の入港が出来ない為、シベリヤ鉄道経由でのイラン向け輸送を行っていましたがアゼルバイジャン共和国（旧ソ連）とイラン国境のジュルハで貨物が滞貨して輸送上の大きな到着遅延が発生した為、輸送促進の要請及びロシア輸送公団（SOTRA）との交渉の目的でモスコー、テヘラン、ジュルファに行きました。

当時のニチメンイラン駐在員は辻村秀明氏でしたが、自宅を訪問させて頂きました。帰路はテヘラン/ドバイ/バンコック経由でした。ついで1987年・1988年には中国

内陸輸送問題で実態調査に行っております。訪問地は北京・上海・広州に加えて、武漢、南京、昆明、西安、重慶、成都、張家港、蘇州、常州などで貴重な体験をしました。1990年11月には「日本貿易会」から派遣されて中国側現地の人々に貿易実務に関する講習会の講師として派遣されました。立派な通訳の方々のお陰で無事任務を果たせました。場所は深圳でした。最後の出張は米国FMCの運賃リベート問題発生でニューヨークニチメンに行きました。米国ニチメン社長は渡利 陽様でした。お蔭でニチメンは一切不利になる処分は受ける事無く解決しました。



「ニチメン年金の会」世話人の皆様と共に

バドワイザー・ビールにまつわる熱い商標紛争

浜 地 道 雄

暑い、といっても、かのサウディアラビア駐在時を思えば何のその。その禁酒国からシンガポールに出張したとき、暑さ、湿気の中で飲んだビール、その「喉ごしのうまさ」の意味を知った瞬間は今でも忘れられない。

さて、そのビール業界で、世界2位、ベルギーを本拠にするInBev（インベブ）による米ビール最大手のアンハイザー・ブッシュの買収が発表された（7月14日）。インベブは「ステラ・アルトワ」「ベックス」などのブランドを持ち、自身がまた、合併、合併を繰り返してきた会社だ。

インベブによる買収総額は約500億ドル。南アのSABミラーを抜き、世界最大のビールメーカーが誕生する。合併後の新会社の社名は「アンハイザー・ブッシュ・インベブ」。両社を合わせた売上高は360億ドルに上る。

このニュースに接して、米民主党大統領候補のオバマ氏は「国民の愛用品が他国に買われる」と遺憾の意を表明したよし。私はチェッコ南部の古都、チェスケー・ブジェヨヴィツェ Ceske Budejoviceの町を懐かしく思い出す。

本家・ボヘミアのバドワイザー

某年、筆者は、転職の合間を利用して家内と「憧れのボヘミア流浪」をした。その時に訪ねたのがこのブジェヨヴィツェである。ドイツ系住民も多かったため、町の名はドイツ語でボヘミア・ブドヴァイス（Böhmisch Budweis）とも呼ばれていた。この“Budweis”を英語読みにすると「バドワイズ」となる。

ものの本によると、当時の君主によりこの町に醸造所が建設されたのは1265年。1531年にはフェルディナンド国王により王室御用達の指定をうけ高品質のビールを作る産地だった。1895年には、ブドヴァイゼル・ブドヴァル（商品名）社が設立されて今日に至る。

ちなみに、イギリスのパブなどで飲まれるぬるいビール・Aleと異なる、Lager（ドイツ語で貯蔵）や、ビールの原点・Pilsnerもボヘミアにある。

現地では、確か明治時代に日本からの留学生がいたと聞いて驚いた記憶があるが、定かではない。

米国産バドワイザーの誕生

他方、アメリカ（セントルイス）では1852年、ドイツ系移民、ジョージ・シュナイダーがババリアン（＝ミュンヘン・バイエルンの意味）醸造所を設立。それを1860年、エバハード・アンハイザーが買収して、社名を変更。続いて1861年、その娘リリーとアドルフ・ブッシュが結婚、共同経営にあたる。1879年には社名を今のアンハイザー・ブッシュに変更。

その間、1876年、「バドワイズのビール」を意味する“Budweiser”を商標登録したことが今日までつづくブランド（商標）訴訟合戦の源である。ブドヴァイゼルとアンハイザー・ブッシュとの間には関係は無く、バドワイズのブランド名を拝借した形である。「本家」側から今風に言わせれば「産地偽装」ということとなる。

チェッコ（スロバキア）が戦後の共産主義体制の時はそれほどでもなかったのが、1989年の「ビロード革命」に崩壊して「商業主義」に目覚めて意思は固い。

両「バドワイザー」の商標訴訟

それは日本を含む全世界ベースでの訴訟問題になっている。

さて、どちらにもその根拠には理由があり、一消費者としては判断がつかないが、ビールを味わいながらこんな歴史を紐解くのは楽しい。

（ネット新聞JANJANより、転載・加筆）



「ダルビッシュ」に思う中東地政」

浜 地 道 雄

米ニューヨークのミッド・マンハッタン47丁目と7番街のビジネス街。仕事を終わっていつも友人と待ち合わせるのが、トルコ料理店のカウンター・バーである。その名をダルビッシュ（Dervish）という。「Turkish Restaurant（トルコ・レストラン）」「Mediterranean Restaurant（地中海レストラン）」とある。

ダルビッシュ？ 日本のプロ野球で人気を上げている日本ハムの投手と同名ではないか。彼の父君は（元）イラン人とのことだ。

そこで、頭の中のサーキットがつながった。ダルビッシュ（DervishあるいはDarvish）とはイスラム教シーア派のひとつの流れ。中近東、ことにイラン、トルコにおける世俗を捨てたイスラム教徒である。「アラー神の下においては人間皆平等」ということで、物質主義を捨て、世俗を離れて托鉢で生計を立てている。

一部で、「貧乏人」という解説も見られるが、「清貧」と解するのが適当であろう。イスラム教2大宗派の1つ、シーア派は開祖モハマッドの従兄弟で娘婿のアリ（Ali）をImam（指導者）として仰ぐ。ダルビッシュ投手の父君が息子に「有（ゆう＝あり）」と名づけたのは、その指導者「アリAli」への思いがあったのだろうと（勝手に）想像する。

マンハッタンのレストランDervishの壁にある絵は、トルコ南部のコンヤにあるスーフィー派の神秘的な「回る宗教」Dervishである。



Dervishはまた、指導者アリの苦行を偲んで自分の体に鞭打って血を流す「アシュラー」というシーア派の重要な宗教行事の担い手だ。

日本のプロ野球の寵児、ダルビッシュから話は複雑な中東の「地政歴史」に発展したが、世界はいかにも人間的、即ち多様な文化の集合体であると痛感する。だからこそ、このグローバリゼーションの時代に、「地域研究」の果たす役目は大きい。

こう考えてくると、「ブッシュ政権には（中東）現場感覚・現場情報が不足しているのではないか」という思いを改めて強くする。

（ネット新聞JANJANより転載、加筆）



故中條幹雄君を偲ぶ

花 澤 和 郎

同期入社（昭和40年=1965年）の中條幹雄君が薬石の効無く67歳の誕生日の6日前8月11日に膀胱がんにて逝去されました。

会社で机を一緒に並べた事はないのですが、私の結婚式の司会をしてくれ、同期の藤澤君（食料本部）一家共々家族同士の付き合いをしてきた身近な存在であった彼が早目に旅立ってしまい寂しさを感じています。ここに私が知っている彼の生前の仕事振りとはエピソードをいくつか御紹介し、元気に活躍していたありし日を偲びたいと思います。

入社後の最初の配属先は人事部でしたので（入社試験の成績が良かったので人事部だと自慢していました）同期のまとめ役でした。

当時のニチメンサッカー部は強豪者揃いで隆盛を極めていましたが上司の岡田さんからマネージャー役を引き継ぎ試合のアレンジ（グラウンドを持っている会社例えば日銀などに試合を申し込む）、ジャージ、スパイク、ボールの手配など一切の雑用をこなしてくれました。商社リーグでの2位（最強の三菱商事と1-1の引き分け）、ソ連通商代表部との親善試合、大阪本社サッカー部との東西対抗戦など彼と一緒に戦った試合の思い出はつきませんが、駒沢グラウンドでの試合で彼が足を怪我をして白い骨膜が露出したのを見て失神、救急車を呼んだことが今も当時のチームメイトの語り草になっています。

人事部から鉄鋼原料部へ移り、1969年12月に新妻を残し約7ヶ月間インド鉄鉱石輸入共同商談の一環としてヴィシャナパトナムへ長期出張をしました。

1978年から5年間ご家族（お嬢様二人）と共にニュージーランドニチメンに勤務、現地に溶け込み活躍されました。当時のナショナルスタッフだったMr. Murrayとはずっと付き合いが続き、このたびわざわざニュージーランドより来日、この7月4日に彼の病床を見舞い、翌日には中條家を訪問したとの事。又駐在時に懇意にしておられたNZ STEELの元会長Sir. Mr. & Mrs. J. H. Ingram からたびたび激励の手紙と共にお花が届いたとの事。彼の大変好かれる人柄が偲べれます。

1988年から5年間をポーランド、ワルソー所長としてご家族と共に二度目の駐在員生活を送られました。

1990年3月に欧州ニチメン・ロンドンで欧州店長／中東・アフリカ店長会議が開催されました。ワルソー店はシャープの家電製品のPEWEX向けConsignment Dealで実績を上げており、彼は自信に満ちており、“東欧改革による拡大欧州の我社取組”というテーマでスピーチをしました。私もイランニチメン支配人としてこの会議に出席しておりました。苦境にあるイランニチメンの建て直しで頭が一杯でしたが彼のスピーチに刺激を受けたことを懐かしく思い出されます。

総務部長として1995年（平成7年）1月の阪神淡路大地震に前日からたまたま大阪へ出張中で遭遇、大阪本社の整理・整頓に活躍されているのが朝日新聞に載りました。又田町の新社屋NNビルへの引越では陣頭指揮を執られ、9月15日のメインエントランスでの式典では司会をされ渡利社長から引越しが万事滞りなく完了したことに対し感謝の言葉を受けておられました。

思い起こせば限りがありませんので、ここに中條君のご冥福を祈りつつ筆をおきます。

合 掌



古谷野役士さんのご逝去を悼んで

平 岡 昭 三

古谷野役士先輩の訃報に接し、只暗然と致しております。

思えば、先輩とは長い付き合いでありました。

最初は私が大阪本社の社長室企画課長の時、インドのカルカット支店長から機械本部に戻られ、それから上田社長室長（後の社長）の後任として着任されました。生真面目で、仕事は厳しかったけれど、暖味のあるお名前通りの昔の侍の風格のある方でした。

宝塚の社宅でも、ご一緒に、私の幼い長女の容子が自分のことを『僕々』と言っていたので、『僕ちゃん、僕ちゃん』と言って可愛がってくれました。

その後、私がニューヨーク支店の総務部長より帰任して、行き先がなくて困っていた時、先輩は機械本部長をされており、私を輸入機械部長に拾ってくれました。

やんちゃな私が無事定年を迎えられたのも、先輩の御蔭だったと今でも感謝しております。

只、先輩には恨めしいことが一つあります。先輩は私が女性に手が早いと見たかして、私の家内に、『気をつけなさい』と耳打ちされたことがありました。

おかげで私は、その後、家内には一生頭が上がりなくなって終わりました。

然し乍ら、これもそれも全て恩讐の彼方であります。今は只穏やかにご冥福を祈るばかりであります。



双日(株)社友会関係窓口

双日シェアードサービス (株)

人事総務サービス部 青木聡弥部長 電話 03-5520-4088 FAX 03-5520-2390

[illegible]

2008年度ニチメン東京社友会年会費支払いについて

2008年度の年会費（3,000円）未納の方は、下記のどちらかの方法にて支払い方、宜しく願います。

- 1) 銀行振り込み：三菱東京UFJ銀行・東京営業部

普通口座：8225155

口座名義：ニチメン東京社友会 代表倉又則夫

尚、銀行振り込みの場合の振込手数料は振込人の負担にてお願いします。

- 2) 郵貯銀行にての振込：窓口にて払込取扱票（ブルーで印刷）を入手の上、

口座番号：00100－4－318041

口座名義：ニチメン東京社友会

この場合、ご依頼人欄に住所・氏名を明記願います。

尚、手数料は振込人のご負担にてお願いします。窓口にての支払いの場合は120円の手数料がかかりますが、ATMご利用の場合の手数料は80円です。

[illegible]

【編集後記】

今年も早々と過ぎ行き、間もなく2009年を迎える。

新生「東京社友会」も四年目に入ります。

「長月会」時代との違いは、まずこの「会報」を年二回発行して来たことであります。今や茲に第5号を数えます。

会報で会員の動静をより広範囲に知る事が出来、また現役時代は窺い知る事の出来なかったOBの皆さんの過去現在に至る感懷や体験談を知る事が出来、ニチメンOBとしてお互いに親密度が増し、紐帯が強まるものと信じます。

会報で避けて通れないお知らせに、「訃報」があります。

訃報に接する度に、在りし日の故人を想いしばし呆然となります。

今回もお二人の追悼文を書いて頂きました。

別冊の「会員名簿」最新版には物故者リストを完備いたしました。

慎みて先に逝かれたOBの皆様の霊安らかならんことを祈ります。

先日、ニチメン同期生の葬儀に仲間と参列して来ました。

“ニチメン東京社友会”名義の生花が、凛として祭壇に飾られていた。

彼と吾らは昭和33年、桜咲く四月に日綿実業(株)宝塚逆瀬川寮に新入生として入寮した。

彼は先に散ってしまったが、“散る桜、残る桜も散る桜”であるのがこの世の理。

吾らの人生、春爛漫のときはとうに過ぎたものの、せめてこれからの余生を仲間と励ましあって楽しく過ごしたいもの。

(長谷川 洋)

ニチメン東京社友会

〒107-8655 東京都港区赤坂2-14-7
双日(株)内 東館17F

発行人	；倉又 則夫	代表世話人
編集責任者	；長谷川 洋	世話人
アドバイザー・スタッフ	；高木 亨一	世話人
	倉持 次雄	世話人
印刷所	；(有) 関 内	印刷